ライフサポートファイルを活用した地域の関係機関との連携の在り方

～個別の教育支援計画の校内外での活用に向けて～

千葉県立長生特別支援学校　電話　0475-42-2470
FAX　0475-42-7517

研究のポイント

研究指定の２年目である。昨年度はセンター的機能の充実に向けて、ライフサポートファイルを有効なツールとして、地域の関係機関との連携の在り方を検証した。今年度は、子供に関わる諸機関にライフサポートファイルの有効性を周知するとともに、個別の教育支援計画の校内外での有効な活用を目指し、内容の見直しや使い方の検討を行った。

■学校の概要　https://cms2.chiba-c.ed.jp/chosei-sh/

本校は、昭和 48 年に千葉県立桜が丘養護学校茂原分校として誕生し、昭和 52 年に茂原高校旧校舎を仮校舎とし「千葉県立長生養護学校」としてスタートした。昭和 53 年に現在の校舎に移転し、平成 19 年度から「千葉県立長生特別支援学校」となった。本校は知的障害と肢体不自由の二つの障害種を教育部門としており、小学部、中学部、高等部（普通科）が設置されている。学区は、知的障害が一宮町、長生村、睦沢町、長柄町、長南町の４町１村、肢体不自由はそこに勝浦市、いすみ市、大多喜町、御宿町が加わり、広範囲にわたる。知的障害、肢体不自由、複数の障害を併せもつ重複障害など様々な障害のある子供たちが在籍しており、一人一人の障害に応じたきめ細かい指導支援を行っている。

■研究課題

特別支援学校のセンター的機能として、生涯にわたり一貫した支援の後押しをするために、ライフサポートファイルを活用した地域の関係機関との連携の在り方や個別の教育支援計画の有効な活用方法を検討する。

■研究の目的と方法

【目的】

①保護者が実際に「ライフサポートファイル」を活用できる場面がとても少なく、福祉、医療、教育等に関わる諸機関にライフサポートファイルの有効性の周知をする。

②生涯にわたって一貫した支援をするためのツールとして、ライフサポートファイルと個別の教育支援計画との関連やつながりを検討する。

【方法】

①長生郡市総合支援協議会の療育作業部会や地域の放課後等デイサービス合同連絡協議会、医療的ケア児者に関する協議の場の準備会へ参加したり、教員を対象とした研修会を様々な場面で実施したりすることで、特別支援学校のセンター的機能として、ライフサポートファイルの活用の仕方や有効性を周知したり、意見交換をしたりすることで、活用の後押しを行う。

②活用しやすい個別の教育支援計画を目指し、「支援の見える化」「校内外での有効活用」「個別の指導計画とのつながり」が意識できるような書式の改訂を行う。ライフサポートファイルを活用しながら、関係機関と連携し、個別の教育支援計画が校内外でどのように有効活用できるかを模索する。

■研究概要

＜研究の取組と成果＞

ライフサポートファイルに関する取組

ライフサポートファイルをツールとして、本校の児童生徒が利用している放課後等デイサービスや保護者との横のつながりを構築し、活用場面を増やすことで、子供の育ちを支援していくツールとしての有効性を周知していくことができてきた。また、事例生徒を通して、ライフサポートファイルの中のこれまでの支援の記録が、在学中や卒業後の支援の引き継ぎの際に、有効であることが分かった。

ライフサポートファイル活用の研修会を通して、教師も一緒にファイル作成に関わり、保護者とともに本校でも活用機会を増やし、子供たちの育ちを支援していこうという意識が浸透してきた。

個別の教育支援計画に関する取組

個別の教育支援計画の様式や利用方法の見直しを行うことが、学齢期の支援の充実や教職員の専門性の向上、さらには、地域関係機関との情報共有の一助になった。様式を新しく整えたことで、合理的配慮の提供や必要な支援が切れ目なく引き継がれ、必要に応じて関係機関と情報共有を行いながら、支援できるようになった。また、サポートマップを作成したことで、関係機関の支援内容が整理され、役割を明確にすることができた。

＜今後の課題と可能性＞

ライフサポートファイルについて

長生圏域でのライフサポートファイルの定着はこれからである。子供に関わる関係機関がライフサポートファイルの趣旨を十分理解した上で、保護者からライフサポートファイルが提示された場合は、適切な支援に資する必要がある。また、地域の医療機関とのつながりが希薄なので、連携を強めていく必要がある。

将来的には病院の電子カルテのように、保護者の了承を得た子供に関わる関係機関が必要なときに必要な情報にアクセスできるような仕組みが構築できると、情報共有がスムーズになり支援の迅速化につながるのではないかと考える。

個別の教育支援計画について

次年度から新たな書式での個別の教育支援計画の運用が始まる。教員全員が個別の教育支援計画を「必要に応じて関係機関と連携して子供の育ちを支援していくもの」という意識をもって、作成していく。子供の具体的な支援内容を明らかにするとともにそれぞれが責任をもって支援していくために、校内外でのライフサポートファイルの活用をとおして、保護者を含め各関係機関と連携し、生涯にわたり一貫した支援を行っていく必要がある。

関連資料

・H30 ライフサポートファイル調査結果概要（千葉県）
・個別の教育支援計画の参考様式について
（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）
・サポートブックの活用実態に関する調査研究（東京学芸大学　加瀬　進）

【講評】

県立長生特別支援学校の実践について

特別支援学校としての役割であるセンター的機能を生かし、ライフサポートファイルを活用した関係機関との連携の在り方についての研究に２年間取り組んでいただきました。

放課後等デイサービス等の福祉機関や保護者との横のつながりを構築することは、支援が必要な児童生徒及び保護者へ適切な支援を行う上での重要課題とされています。ライフサポートファイルをとおして関係機関との連携を深めたこと、その重要性を地域に広めたことは、大変素晴らしい取り組みであると考えます。また、個別の教育支援計画の活用において、ライフサポートファイルに関わる人を引き入れ、児童生徒の切れ目ない支援につなげる方向性を築いたことは、他の地域や特別支援学校にとって大いに参考になっていくものと考えます。

今後は、関係機関とのつながりを生かし、サポートファイルおよび新しく見直しを図った個別の教育支援計画の実用的な活用の発信ができることを期待しております。